



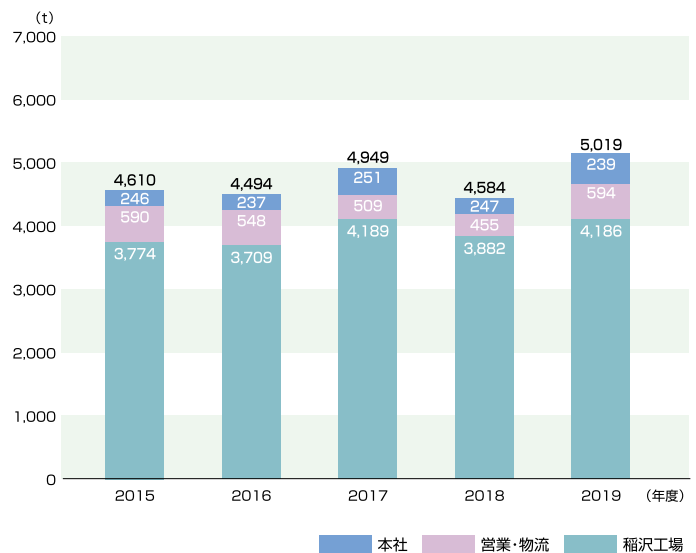
地球温暖化を防ぐため、 シヤチハタにできることから始めます。

シヤチハタは、事業活動にともなう温室効果ガスの排出量を削減するために、生産事業所におけるエネルギー利用効率の向上や再生可能エネルギーの導入、オフィス拠点での省エネルギー機器の導入や節電対応、物流効率の向上など、グループ全体で取り組みを進めています。さらに、サプライチェーン全体を視野に入れ、地球温暖化防止に向けた効率的な対策の推進に努めていきます。

CO₂排出量

シヤチハタ全社の2019年度のCO₂排出量は5,019tで、2018年度の4,584tから435t増加となりなした。これは2019年度の稲沢工場における排出量増加に伴うものです。今後も生産工場の消費電力削減に向け、より一層取組みを進めていきます。また、省エネ法の対応として、生産拠点以外の本社や他の営業拠点及び間接部門においてもCO₂排出量を把握し、省エネ活動による排出削減を継続していきます。

CO₂排出量の推移(全社)

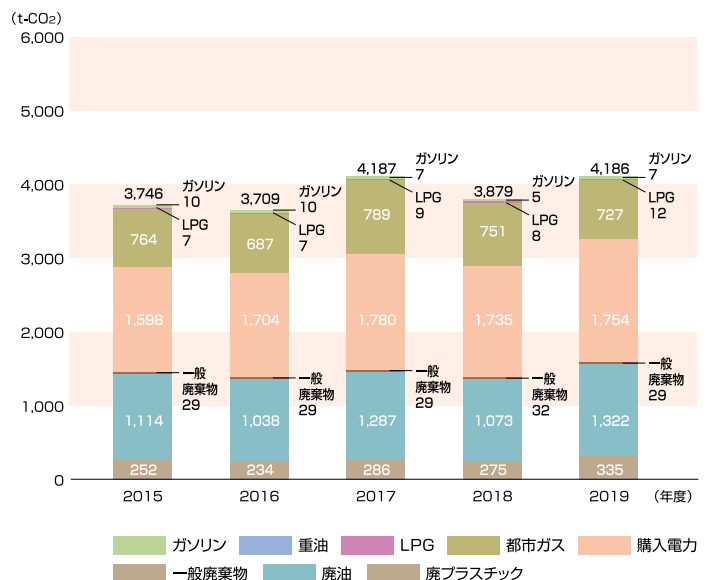


エネルギー別CO₂排出量

稲沢工場の2019年度におけるCO₂排出量のエネルギー別内訳を見ると、電力使用にともなうCO₂が1,754t、廃油由来のCO₂が1,322t、都市ガスの燃焼によるCO₂が727t、廃プラスチックによる335tのCO₂が排出されています。

シヤチハタでは外部に最終処分を委託している一般廃棄物や産業廃棄物(廃油、廃プラスチック)の焼却によって排出すると思われるCO₂排出量も把握。その削減はシヤチハタの責務であると認識し、取組みを進めています。

エネルギー別CO₂排出量一覧(稲沢工場)



省エネルギー活動

シヤチハタでは、生産部門、間接部門をあげて、省エネルギー活動を推進。地球温暖化防止に向けて、できることから着実に実行していこうとしています。ここでは、主な取り組み事例をご紹介します。

太陽光発電システムの導入

生産拠点である稲沢工場では、2012年度より再生可能エネルギーである太陽光を利用した、太陽光発電システムを導入しました。稲沢工場の屋根に1,022枚の太陽光パネルを設置し、太陽光発電により発電した電力は、全量を電力会社に売電しています。また、工場入り口にはモニターを設置して、社員だけではなく、来社されたお客様にも発電量を実感して頂けます。2019年度では年間発電量は約270,581kwhとなり、CO₂排出削減量は年間約100tとなりました。



省エネルギーに向けたさまざまな取り組み

シヤチハタグループのエネルギー使用量の約82%を占める生産部門では、大型の設備投資や新技術の開発・導入から、作業手順の工夫や日常の小さな努力の積み重ねまで、さまざまなかたちで省エネルギーに取り組んでいます。具体的にはクリーンエネルギー（天然ガス）への転換や、省エネ型設備の導入、さらには洗浄済み溶剤の再利用まで、多彩な取り組みを実践しています。一方、オフィス等の非生産部門でも、工場に比べれば削減量自体小さなものですが、こまめな節電により、着実に削減を進めています。